

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・観光が好調なことに加えて、映画の撮影が行われていることにより、外部から人が流入してきており、それに伴い来客数も増えている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・大手航空会社の搭乗率が前年並みであることに加えて、ＬＣＣの便数も増えてきているため、観光客の来道が増えている。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・中心部に商業施設がオープンしたことで周辺にぎわいが出ており、当店の集客効果につながっている。
		コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・6月の売上は前年比104%であった。競合店のオープンから1年が過ぎたことで、1年続いた売上の前年割れがストップした。4月からアイテム数を増やしており、中でもマスクミにも取り上げられたサラダが好調に推移している。6月のサラダの売上は前年比120%であった。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・他社を含めた新型車効果により、客の購買意欲が高まっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・定期昇給や一部手当の見直しなどにより、給与所得が増えている客が多く、客の購買意欲が増している。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・国内のインセンティブ旅行が好調に推移した。海外の芸能タレントグループの連泊もプラスに作用した。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・航空機の利用者数が増加傾向にあり、ビジネス客、観光客共に堅調な動きがみられる。5～6月は花観光やマラソンなどのイベントも定着してきているため、外国人観光客も増加傾向にある。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・6月26日時点での利用乗降客数が前年比107.5%と増加している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期を迎えて、輸送量が増加してきている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・高額商材の動きが鈍くなっている。それに伴い客単価も平均で5%程度落ちている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子がこれまでと変わらず、平々凡々な反応である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・6月は平日の来街者が少ない状況がみられ、全体的な景気は引き続きやや悪い状態で推移している。特に店舗の定休日が集中する月曜～水曜は午前、午後を通してまばらな人数しか確認できなかった。ただ、木曜の午後や金曜は来街者が増加する傾向がみられた。観光客の動きは前月に比べて落ち着いてきており、目立つほどの増加は確認できなかった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・6月の北海道は気温の低い日が続いたことで、夏物衣料が全滅となるなど、売上を大きく落としたファッション系の店が多かった。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当店は観光地に立地しており、ここ数年、6月の業績に変化はあまりみられない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、ほぼ同じような状況で売上が推移しており、どちらかといえば景気の良くない状況が続いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ここ3か月、当社の売上は前年を上回って推移しているが、施策の失敗により前年の売上が落ち込んだことの反動という面が大きく、一昨年との比較ではほぼ同じような売上となっている。客単価はほぼ横ばいで推移しており、客からは不要不急な物は欲しくないという声も多く聞かれる。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数は横ばいで推移しているものの、買上客数がマイナス傾向で推移している。客単価の上昇により前年比はプラスで推移しているが、外国人観光客増加による恩恵が大きく、第一次商圏からの来客による購買はマイナス基調となっている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・全体的な傾向は変わらないが、3か月前と比較すると明らかに客の動きに活気が出てきた。
		百貨店（営業販売促進担当）	それ以外	・来客数は前年を上回ったが、客の購買動向が変化してきている。衣料品に対する購入意欲が弱く、ミセス、シルバー層を中心に中価格帯の商材が苦戦している。定価品の売上にも影響が出ている。

スーパー（店長）	来客数の動き	・前月に引き続き来客数の前年割れが続いている。一方、客単価の上昇トレンドは変わらない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・父の日需要は前年と比較して大きく下回った。天候の影響もあり、来客数の前年割れが継続しており、3か月前と比べて変化がみられない。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・週末の雨が続いたことで、行楽や運動会などの需要が取れなかった。酒類は一部値上げの影響で販売量が落ち込んだものの、売上は前年並みを確保している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上の前年比が上がってきているが、天候不順であった前年の反動によるものであり、不漁などの根本的な問題に変化がみられない。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・依然として、販売促進策の実施時や気温上昇時の客の購入が目につくが、普段の購入については引き締め感が強い。
衣料品専門店（店長）	それ以外	・同じ会社のブランドであっても、売上の良い店と悪い店で差がみられる。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・6月は晴れの日が多かったためか、エアコンの動きが良かった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果があまりみられない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・これから7～9月にかけて新型車やマイナーチェンジの車種が出てくるため、6月はちょうど谷間の月にあたり、景気が停滞気味である。
その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・前月の売上悪化からはやや回復したが、来客数の減少に歯止めがかからない。一般客向けの啓もう活動が必要になってきている。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・原油価格が安定しているため、石油製品価格に変動がみられない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年3月の北海道新幹線の開業という特殊要因による動きも落ち着いたことで、6月の売上は前年比85%であった。開店と同時に満席になるが、閉店まで勢いが続かない。スタッフ不足に伴い、前年から中抜け閉店時間を設けていたが、スタッフがそろったことから、6月中旬からは本来の通しの営業時間に戻した。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏に近づくにつれ、月初めの来客数が堅調に推移するようになったが、月末には前月並みの数字になってしまった。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年も販売量があまり良くなかったが、今年もほぼ変わらない販売量であるなど、景気が上向いてこない。
タクシー運転手	来客数の動き	・6月は多くのイベントがあるため、利用客の増加を期待したが、タクシーの売上は前年並みであった。
タクシー運転手	来客数の動き	・法人からのオーダーやイベント関係での利用がやや好調だったが、観光関係のオーダーがやや減少しており、全体的には変化のみられない月だった。
タクシー運転手	販売量の動き	・6月に入り、他地域からの入込が落ち着いている。前年までであれば、外国人観光客の需要を多少見込んでいたが、今年は地元空港で海外便の発着が1便もないため、冷え込んだ状況にある。
タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて変化はみられない。6月に入り、わずかでも改善することを期待していたが、期待どおりとはならなかった。北海道新幹線が開業した前年とは異なり、厳しい状況にある。6月の状況は一昨年並みであり、これから夏に向けての期待感があるものの、厳しさが増すことを危惧している。
美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期、支払金額が3か月前とほぼ同じであり、変化が感じられない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前よりも売上は少ないものの、例年と変わらず安定した売上が続いている。
美容室（経営者）	お客様の様子	・5月の売上が前年よりも落ち込んだが、その分6月に来店する客が増えている。
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・金利低下の状況が続いているものの、住宅着工数は頭打ちになってきている。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来場客の様子として、最近は商談にかかる時間がやや長くなってきている。ただ、成約率は安定しており、業況が悪化しているわけではない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・春先と比べて、客足がやや落ち込んでいる。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・6月は3か月前と比較して販売量が悪かった。買上点数や客単価は前年を上回ったものの、来客数と売上は前年の9割にとどまった。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・6月は天候要因により売上が左右された月であった。	
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・買上客数の伸び悩みが続く中、ここにきて青果物、水産物の価格低下などにより客単価の前年割れの傾向が出てきており、なかなか売上が前年をクリアする水準に届かない。	
	スーパー（役員）	販売量の動き	・5月の売上が上向いたことから、夏に向けて明るい状況とみていたが、6月に入り、19度の気温差のある日がみられるなど、寒暖の差の大きい日が続いたことで、スイカやメロンなどの夏物商材や焼肉の不振が目立った。また、水産物では不漁の影響で夏イカの動きも悪かった。全体的に旬の商材の動きが悪く、旬の商材は単価が高いため、客単価低下が売上に影響している。	
	スーパー（役員）	お客様の様子	・6月は年金の支給月であるが、これまでと比べて盛り上がり欠けるなど、客の節約志向が強くなっていることがうかがえる。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・6月はボーナス月であり、例年であれば中旬以降の景気が上向いてくるが、今年は落ち込んだままであった。市内の飲食店では調理や配膳などのスタッフが足りず、来店した客の受け入れを断ってしまうという話をよく聞くようになった。従業員を募集しても集まらないのが実情であり、時給の高額化に加えて、業界誌やWebサイトの掲載料も経営を圧迫しており、飲食業界全体の景気はやや悪くなっている。	
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・団体客、個人客共、外国人観光客の減少が目立ち、売上が低下傾向にある。当社のみならず地域全体にこうした傾向がみられる。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏の家族旅行や秋旅などの相談時期だが、天候の影響もあるのか、販売量があまり伸びていない状況にある。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・数か月ぶりに前年並みの売上を確保したものの、景気回復を実感するようなものではない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・営業圏内全体的に需要が低下している。乗務員も暇な時間帯が多いと聞いている。	
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・割安な料金プランを客に訴求しているものの、割安感が浸透しておらず、競合他社への流出が続いている。	
	×	コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・これまで外国人観光客が多かったが、今は少なくなっており、それに伴い客単価も下がっている。地元客だけでは経営が成り立たなくなってきた。
企業 動向 関連 (北海道)	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の3月の販売量は前年比マイナス9%であったが、6月は前年比プラス9%と伸びている。	
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・道央圏を中心にTPP対策を目的とした国の補助金に基づく農業施設の発注、建設が盛んに行われている。建設分野に参入している建築鉄鋼業者の一部では設備投資の好機と捉えるなど、波及効果も大きい。	
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・民間建築工事の引き合いが多く、上半期前半で年度受注計画を達成している。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・本州向けの輸送は相変わらず苦戦を強いられているが、輸入貨物が見込みよりも好調に入荷しており、全体的に春先よりも忙しくなっている。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・雨の日の多さが、持ち直しのみみられる個人消費の重荷になっているものの、外国人観光客による消費拡大と公共投資の好調さがカバーしており、道内景気は3か月前に比べてやや良くなっている。	
	その他非製造業 [鋼材卸売]（従業員）	受注量や販売量の動き	・新年度に入ったこともあり、商材の動きが3か月前よりも良くなっている。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ハウジングメーカーなどの住宅新築に関連した需要は少なくないが、百貨店などの小売の動きが良くない。	
	司法書士	取引先の様子	・当初は、5月以降になれば不動産取引や建物の建築着工が増加すると見込んでいたが、見込みに反して伸び悩みの状態が続いている。	

	司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復の兆候がみえない。不動産取引も散発的であり、こうした状況がこのまま継続するのか、これから景気が上向いてくるのかが判断できない。非常に不安定な状態で推移している。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・案件数、販売価格共、前月と横ばいで推移している。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が引き続き前年比で10%以上の伸びを示している。	
	司法書士	取引先の様子	・例年と比較して不動産の売買、建物の新築工事が少ない。	
	x	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて売上が減少しており、前年と比べても1割近く減少している。工場も一部生産調整を行っている。
雇用 関連 (北海道)	-	-	-	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業経営者の表情が明るい。業績が堅調なようで人材ニーズも高い。中途採用ニーズに加えて、事務系や販売系、キャンペーン対応などでの派遣の要望が高い。特に夏を迎えるにあたり、野外イベント、販促キャンペーンが数多く行われており、それらの短期単発の人材派遣ニーズが高い。また、観光施設からの人材ニーズも高く、景気は堅調といえる。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・景況感は悪くない。業種や職種を問わず人手不足が顕著に表れ、各社とも中途採用での人材確保に苦慮している。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・自動車関連の売行きがやや好調に転じているほか、住宅着工件数が順調に推移しているなど、周辺企業に若干の明るさがみられるようになってきている。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の前年比が減少傾向にあったが、直近になり増加傾向に転じている。特に福祉分野では施設の新設に伴う増員のための新規求人などもあり、補充も含めて新規求人の伸びが目立っている。	
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年以上に企業の新卒採用意欲が高く、特に運動部男子の採用を望む企業が圧倒的に多い。一方、内定を得ている学生が就職活動を継続しており、今後の内定辞退に伴い企業の採用活動の長期化が見込まれる。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・小売やファッション、生活関連サービスなど、個人消費関連の業種で求人件数が伸びている。また、建設、運輸、介護も引き続き堅調に推移している。全体的に企業が人材確保に苦慮している。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と同じ状況であり、全体的に変化がみられない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が5年7か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が4か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は0.97倍と7年3か月連続で前年を上回った。	
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・イカ漁が前年ほど悪くないとの声の水産加工業者から出ているが、前年が非常に悪かったことを考えると、楽観的にはなれない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月の有効求人倍率は0.95倍であり、9か月連続で前年を下回ったが、引き続き1倍に近い水準にあり、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。	
	x	-	-	-